

首都圏居住者 借家層の約8割が“持家を希望”

～長谷工アーベストWEBアンケートより～

(株)長谷工アーベスト(本社：東京都港区、社長：岡 正徳)は、首都圏(東京、神奈川、埼玉、千葉)に居住している20代後半から50代の方を対象にWEBアンケートを実施し、借家層()の「持家志向」について分析を行いました。

(調査期間：2010年11月29日～12月2日、回答者：456件)

その結果、全体の約8割が「持家が良い」、「どちらかといえば持家が良い」と回答。また、年代別でも、各年代で7割以上が「持家が良い」、「どちらかといえば持家が良い」と回答しており、『持家志向』の底堅さが窺える結果となりました。特に、消費性向の変化が指摘されるマンション購入の主力購買層となっている若年層(20代後半から30代前半)については、約9割とその他年代に比べてより高い結果となっています。

持家を希望する理由を見てみると、“老後や将来への備え”“安心・安定”“家族や自分の拠り所”など将来の安心感を享受できることに意味や価値を見出している様子が窺えました。

「持家」を将来の備えとして購入したいと考える方は多く、今後はそうした底堅い持家志向層を顕在化させる商品供給の増加がより重要になると考えます。

()借家層の居住形態：戸建借家、賃貸マンション、公団賃貸マンション、社宅官舎、アパート

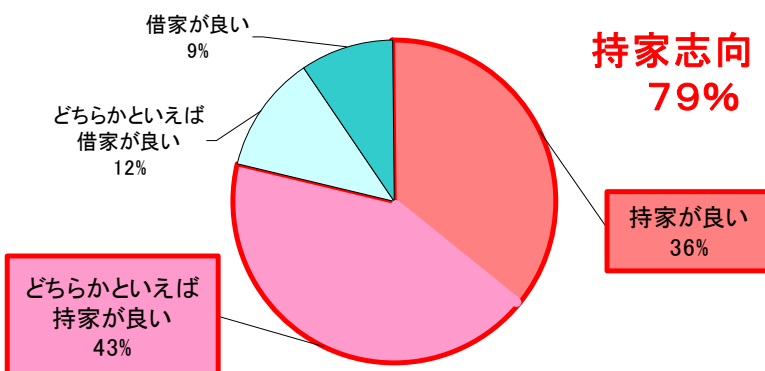
Q. 自分の住まいには、「持家」「借家」のどちらを希望しますか？

(N=456)

全体の36%が「持家が良い」、43%が「どちらかといえば持家が良い」と回答しており、『持家志向』は約8割(79%)と非常に高い結果となりました。

年代別でも、20代後半(90%)、30代前半(88%)、30代後半(78%)、40代(78%)、50代(70%)となっており、各年代で「持家が良い」または「どちらかといえば持家が良い」と7割以上が回答しています。

《持ち家志向 (2010/12調査)》



■持家志向 (年代別)

2010/12調査	持家が良い	どちらかといえば持家が良い	持家志向
20代後半 (N=46)	46%	44%	90%
30代前半 (N=65)	57%	31%	88%
30代後半 (N=91)	35%	43%	78%
40代 (N=178)	32%	46%	78%
50代 (N=76)	24%	46%	70%

【この件に関するお問い合わせ先】
 (株)長谷工アーベスト 企画部門
 執行役員 水谷 英夫
 TEL 03-5440-5850

老後や将来などへの備え

- ・将来、住む所に困らなくて済む。財産を持つことができる。(27歳/400万円未満)
- ・老後に家賃を支払わなくても良い。(29歳/400万円台)
- ・資産を持つことになり、自己財産としての将来の保険の一つ。また、ローンを組むことで、生命保険の代わりとして無駄な保険を抑えられる。(35歳/700万円台)
- ・将来の不安材料が一つ消える。(37歳/600万円台)
- ・老後が安心。子供に残してやれる。(37歳/500万円台)
- ・老後に家賃を払い続けるというストレスから開放され、自分の最終的な居場所を作ること。(38歳/500万円台)
- ・年老いて家賃を払わなくて済む。自分のものなので誰に遠慮することなく家を楽しめる。(48歳/700万円台)
- ・老後の安定した生活の準備、資産形成、家庭の絆。(52歳/900万円台)

安心・安定、心の拠り所

- ・一生懸命働いたことが形になること。安定した生活を送れること。(28歳/400万円未満)
- ・自分の居場所の確保。安心。(33歳/600万円台)
- ・家族を養うための拠点。(38歳/400万円台)
- ・家族の住む場所(生活の起点)を確保するということ。(45歳/600万円台)
- ・ホッと出来てくつろげる場所、自分の帰れる場所が持てるという安心感。(48歳/400万円未満)
- ・一生大切にしたい場所であり 家族の憩いの場であり 安らぎの場であり ホットする場。(53歳/700万円台)

その他

- ・永住できる場所ができる。(28歳/400万円未満)
- ・自分の好きな空間が演出できる(インテリアなど)。(42歳/400万円未満)
- ・覚悟を決めるという感じ。(34歳/500万円台)
- ・安心感。自分達の居心地の良い様にどんどん進化させていけるし、将来子供にも残してやれる。
(46歳/900万円台)
- ・快適な空間で疲れを癒し、また明日への活力を補充できる大切な場所。(46歳/900万円台)